

## 自殺大国日本

警察庁は、今年1月から6月の全国の自殺者が1万6千人に上ると発表しました。特に、東日本大震災の翌月以降3ヵ月連続で増加しているといわれており、大変懸念されます。

昨年の全国の自殺者数は、対前年度3.5%減少したものの、13年連続で3万人を超えてしまいましたが、今年もまた、3万人を超えることが予想される厳しい状況です。

日本の自殺率は10万人当たり24.4人となっており（WTOの2009年調査結果）、先進欧米諸国と比較すると圧倒的に高い自殺率となっています。しかも、自殺者が10年以上にわたって3万人を超えている状況は、まさに異常という外ありません。

ちなみに、日本の自殺率24.4は、世界第6位であり、1位から5位はロシアなどの旧東欧諸国となっています。

警察庁の調査によると、これまでは、自殺の原因・動機で遺族に心当たりがあるのは7割強であり、最も多かったのが「健康上の理由」、以下「経済・生活問題」「家庭問題」「勤務問題」などとなっていますが、今後、大震災を苦にして自殺を図る方が増える可能性もあり、国や自治体にはしっかりとした対策をとっていただきたいと思います。

警察庁の調べにもあるように、自殺の原因は人によって様々ですが、いじめなどを苦にして幼い子どもが自殺するという事件には、胸塞がれる思いがします。

誰であっても、なくなって良い命はありません。しかも、身内の方が自殺した場合、残された家族など身近な方々の心に与える苦しみ・悲しみは余りにも大きなものがあります。自殺は、自殺する人だけの問題ではありません。

自分の命を自ら絶つということは、他人の命を絶つと同様、絶対にしてはならないことです。自分の人生を、自殺という行為によって精算しようとするのかも知れません。しかし、自殺によって人生をリセットする、などというこ

とはできるはずもありません。どんなに苦しくても、生き抜くことによって  
しか、やり直すことができない、それが人生というものです。

相談事業など自殺防止に向けて様々な事業が行われていますが、残念ながら  
自殺を防ぐ決め手とはなっていないようです。

こうした中、親を自殺でなくした学生らによって組織されている「ここわら  
ねっと」というグループは、先般、「大切な人との写真」パネル展をかでの2  
・7などで実施いたしました。その趣旨は、パネルを見ながら、大切な人との  
“本当のつながり”を改めて実感して欲しいというものでした。

自殺を少しでも減らしていくためには、それぞれの家族が改めて家族の絆を問  
い直すと共に、地域コミュニティの再生を含め、社会という仕組みの中に心と  
心を繋ぐセーフティネットを充実させていくことが重要であると思っていま  
す。(塾頭 吉田 洋一)